



①エントランスドアのガラス戸越しにロビー&ラウンジが見える。2階にも開口があり、視線が抜ける。庇は鉄骨の屋外階段とテイストの合うアルミ製のものが採用された。②林を背後に控え、自生植物が生い茂る自然豊かな環境に建つ新校舎。左奥に見える建物が本校舎。手前が狹隘道路のため、工法選定においては施工面でもツーバイフォー工法が優位だった。③構造体の写真。2階床に平行弦トラスが施工されている。

## ツーバイフォー工法による 小学校校舎

本施設は昭和39年に開校し、幼稚園から高校まで約40の国・地域の生徒約500人が学ぶインターナショナルスクールにおいて、生徒増加に伴う施設拡張計画の一環として計画されました。インターナショナルスクールの小学部の最終学年である5年生を特別な環境のもとで学習させたいという学校側の希望から、本校舎の隣に確保した敷地に「自然と触れ合える校舎」をコンセプトとした新校舎建設の検討が始まりました。学習環境や規模、コストから木造が選ばれ、また、新学期に向けて設計から1年間で完成させるという厳しい条件等もあり、最終的にツーバイフォー工法が採用されました。「既存校舎はRCや鉄骨造ですが、木造のなかでも北米生まれの基本的な工法として国際的に定着しているツーバイフォーは、オーナーの信頼を得やすかったということもありました」と設計者は語ります。

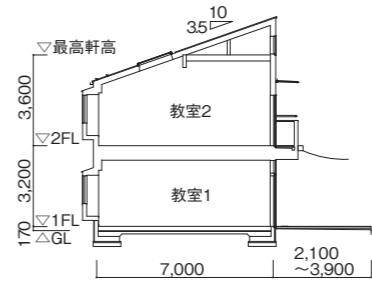
新校舎は床組に平行弦トラスを採用して1階、2階に約60m<sup>2</sup>の教室を確保。教室内に光をふんだんに取り入れるため、屋根は北側片流れの形状として南面の高い壁にハイサイドライトを配し、北側の傾斜面にトップライトを設けてあります。教室・ラウンジともに窓を多くとり、出入りにガラス戸を採用することで、建物のどこにいても周辺の既存樹木が視界に入り、また、窓と戸を開け放つと、自然との一体感を感じられる設計となっています。



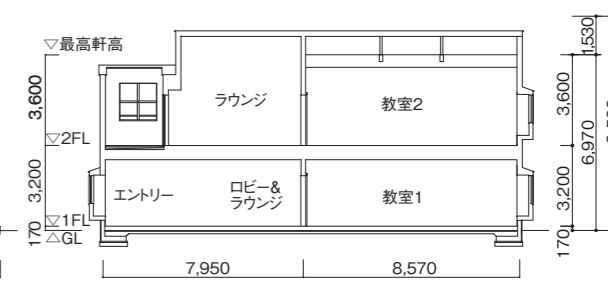
新校舎で学ぶのは小学5年生の22人×2クラス。1階の教室には壁3面に窓が設けられ、掃き出し窓からテラスに出られる。腰高窓の手前には造り付けのベンチがある。床に直接座る授業もあるためタイルカーペット敷きになっている。



敷地内の既存樹木と周辺の林の緑に囲われた2階のバルコニー(上写真)と1階のテラス(下写真)。外壁は、木々の幹の色に近いダークブラウンのサイディング。

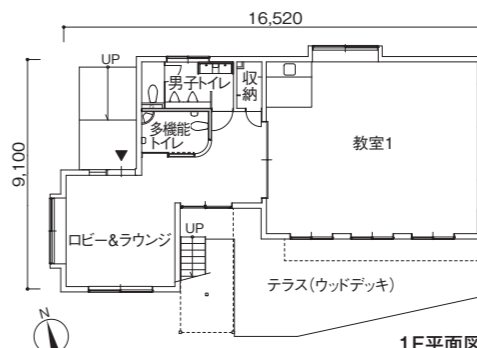


北-南断面図

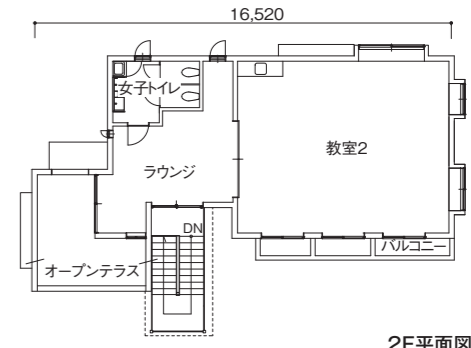


西-東断面図

縮尺 1/300



1F平面図



2F平面図

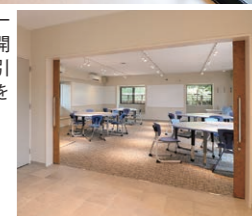
縮尺 1/300



上履きに履き替えず、靴のまま各部屋へ。昇降口の代わりにゆったりとしたロビー&ラウンジがつけられている。アール壁のところは多機能トイレである。



ロビー&ラウンジも教室の一部として使えるように、全開放できる大きなガラス窓の引き分け戸が設けられた。戸を閉めていても視線が抜ける。



2階の教室。約60m<sup>2</sup>の広さがある。木質断熱複合パネルが採用され、勾配天井が設けられた。木造建築を感じてもらいたいという意図から集成材の構造梁が現わしとなっている。



### 物件概要

### School

#### G-5 Annex (名古屋国際学園5学年棟)

所在地: 愛知県名古屋市

用途: 小学校

構造: 枠組壁工法

規模: 2階建て

敷地面積: 401.62m<sup>2</sup> (121.49坪)

建築面積: 119.05m<sup>2</sup> (36.01坪)

延床面積: 199.06m<sup>2</sup> (60.22坪)

事業主: 学校法人名古屋国際学園

設計: DesignLINK (Nデザイン/ニール・ウォーレン、カワナベデザイン/川鍋明弘、プロジェクトデザイン/竹下衛)

施工: 協和コーポレーション

構造材料供給: 三井ホームコンポーネント(株)

工期: 2017年3月~7月

主な法規・敷地条件: 第1種低層住居専用地域、緑化地域、建蔽率30%、容積率50%